

第43回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2011年11月8日(火) 13:30～14:00

2. 場 所 中央合同庁舎4号館 12階 1202会議室

3. 出席者 原子力委員会

近藤委員長、鈴木委員長代理、秋庭委員、大庭委員、尾本委員
内閣府

中村参事官、吉野企画官

4. 議 題

(1) 東京電力(株)福島第一原子力発電所事故を踏まえた核セキュリティ上の課題への対応
について(経過報告)

(2) その他

5. 配付資料

(1-1) 福島第一原子力発電所事故を踏まえた核セキュリティ上の課題への対応について
(経過報告)

(1-2) 福島第一原子力発電所事故を踏まえた核セキュリティ上の課題への対応について
(見解)

(2) 第35回原子力委員会定例会議議事録

6. 審議事項

(近藤委員長) それでは、第43回の原子力委員会定例会議を開催させていただきます。

議題は、東京電力(株)福島第一原子力発電所事故を踏まえた、核セキュリティ上の課題
への対応についての経過報告をいただきます。2つはその他です。よろしゅうございますか。

それではどうぞ、ご説明をお願いいたします。

(中村参事官) それでは議題1番目です。東京電力(株)福島第一原子力発電所事故を踏ま
えた核セキュリティ上の課題への対応について、吉野企画官よりご説明いただきます。

(吉野企画官) ご説明いたします。本日原子力防護専門部会の内藤部会長がご出張中ということでございまして、代わりましてご説明申し上げる次第でございます。

まず資料１－１をごらんいただければと思います。こちらのほうを読み上げさせていただきます。近藤委員長宛で内藤部会長よりということでございます。

福島第一原子力発電所事故を踏まえた
核セキュリティ上の課題への対応について（経過報告）

当専門部会は、本年６月に設置した技術検討ワーキング・グループより、福島第一原子力発電所事故を踏まえたセキュリティ上の課題への対応について、検討の途中経過の報告（別添参照）を受けましたので、報告します。

なお、今後ＩＡＥＡ核セキュリティ・シリーズ勧告文書を踏まえた我が国の対応策について検討を継続し、年度内を目途に報告書としてとりまとめる予定です。

ということでございます。

次のページから、合計７ページにわたりまして福島第一原子力発電所事故を踏まえたセキュリティ上の課題への対応が記述されているものでございます。若干かいつまんでご報告、ご説明させていただきます。

まず、はじめにというところから今回の経過報告の背景といたしまして、もともとワーキング・グループ、ＩＡＥＡ核セキュリティ・シリーズへの対応を検討するためを中心として発足したわけでございますが、特に内外の情勢をかんがみるに、福島第一原子力発電所事故への対応の結論が急がれているということで、まずそこを検討しましたということが初めに書かせていただいているところでございます。

はじめにと若干かぶりますが、基本的認識というところでございます。まず１段落目でございますが、この原子力災害というものが広く人々の生活環境を汚染し、経済社会に甚大な影響を与えるということが明らかになったということを改めて認識しております。

また、３段落目でございますが、安全面のみならず、核セキュリティ面においても今回の事故の教訓をとりまとめ、国際社会と共有し、国際社会の取組に反映させていくことが我が国の責務であるということを述べてございます。

また、最後の段落の中ほどでございますが、核セキュリティにおいて原子力施設に対する

テロ行為が現実により得るものとして取り組むことは当然であるということ。そして、事業者、規制当局、治安当局が各々の取組を強化するとともに、相互に連携して実効ある対策を講じていくことが必要である、と基本的認識を述べさせていただいております。

次に、第2章といたしまして、テロの脅威ということでございます。今回の事故を踏まえますと、まず原子力施設に対する世の中の関心ということもございまして、テロリストの原子力施設に対する関心が高まっていることが懸念されるということ。

続きまして、2)でございますけれども、原子力施設の幾つかの設備がテロの対象として有効であることが明らかになったということでございます。これまでは核燃料や核燃料物質が収容されております原子炉への攻撃を想定してきたところでございますが、それ以外の電源でございますとか冷却機能といったような付帯の設備を破壊することによっても非常に重要な結果を引き起こすことができるということございまして、これらへの防護の強化が一層求められるということをテロの脅威として認識させていただいているというところでございます。

また、3)でございますけれども、このようなテロ行為が想定し得るということとともに、いわゆる内部脅威と言われておりますような従業員等がテロ行為を行うことも想定し得ることに改めまして注意を呼び起こすとともに、4)でございますけれども、何らかの原因で緊急事態発生時においても核セキュリティ活動を継続していくための準備が必要であるということを書いておるところでございます。

そして、第3章といたしまして、個々の核セキュリティ上の課題への対応ということでございます。まず柱書きの第1段落でございますけれども、等級別取組、グレーデッドアプローチと深層防護、ディフェンスインデプスの考え方にとつてこれまでも核物質防護の設計が行われているということを書いておるところでございます。

続きまして、その防護措置が具体的に検知、通報、遅延等々の考え方にとつてこれまでも設計されてきているということを書いた上で、3段落目でございますが、第2章で述べましたようなテロ行為に対して早急な対応が迫られていること、また一層の防護をすべき冷却機能でございますとか電源といったような設備が防護区分の周辺に設置されていることを踏まえて、こういったことをリスク情報として踏まえますと、事業者、規制当局、治安当局が以下の措置を速やかに講ずることが求められるということを書いておるところでございます。

具体的には1)といたしまして侵入の早期検知、2)といたしましてテロ行為の遅延、

3) といたしまして防護すべき設備の耐性の向上、これは爆発物等による設備への破壊を防ぐという趣旨でございます。

続きまして、4) で防護体制の整備のところでございます。より具体的には第2段落目でございますが、不法侵入を検知して治安当局への通報等を行う事業者の体制、及び不法侵入者等に対応する治安当局の体制（人員、装備、資機材等）を整備することが必要であるということをご改めて強調させていただいているところでございます。

また、5) といたしまして、緩和策等の準備。この緩和策と申しておりますのは、防護すべき設備が破壊された場合に備えまして、その影響を緩和する、できるだけ放射性物質による影響を緩和する、そういったものができるだけ出ないようにしていくといったような対策も準備することが必要であるということでございます。そういった準備がきちんと機能することを検証していくことが重要であるということをご述べさせていただいているものでございます。また、その中には、防護体制を応援するために追加的な必要な人員などを動員するといったようなこと。また、従業員、負傷者、近隣住民を退避させるといったような計画も含まれているということをご述べさせていただいているところでございます。

続きまして、6) でございますが、以上述べましたようなさまざまな防護体制の整備でございますとか緩和策等の準備といったようなものに関しましても、当然のことながら常日ごろより各組織間の連携を密にしていくための訓練と、その訓練結果を踏まえた計画の見直しといったようなものを繰り返すことが重要であるということをご述べさせていただいております。

最後、7) で、脅威のところでも述べました内部脅威対策に関しましても改めて強化することが重要であるということをご述べているものでございます。

最後、終わりにというところでございます。最初の段落でございますけれども、限られた時間の中での検討等でこのとりまとめということをごございまして、個別の施設ごとの具体的な対応については、事業者、規制当局、治安当局の間で緊密な連携を行って柔軟に計画を立てていくことが重要であるということをご述べさせていただいているものでございます。

以上が原子力防護専門部会からの報告の内容でございます。

この原子力防護専門部会からの報告を受けまして、原子力委員会といたしまして見解を述べてはいかにかということをごございまして、資料第1－2号をご用意させていただきました。こちらのほうを読みあげさせていただきます。

福島第一原子力発電所事故を踏まえた
セキュリティ上の課題への対応について（見解）
（案）

平成23年11月8日

原子力委員会

原子力委員会は、本日、原子力防護専門部会から、本年6月に同専門部会に設置された技術検討ワーキング・グループにおける福島第一原子力発電所事故を踏まえたセキュリティ上の課題への対応についての検討の途中経過報告を受けた。

この報告は、同ワーキング・グループが、福島第一原子力発電所事故を踏まえた核セキュリティ上の課題の抽出及びその課題への対応について検討を進め、とりまとめたものであり、事故を踏まえた原子力施設に対するテロの脅威を踏まえて原子力施設に求められる核セキュリティ上の課題への対応を示している。

当委員会は、この報告内容を妥当と判断し、事業者、規制当局及び治安当局が、これらの内容を尊重して速やかに対応を進めることを期待する。

なお、原子力防護専門部会は、今後、IAEA核セキュリティ・シリーズ勧告文書を踏まえた我が国の対応策について検討を継続し、年度内を目途に報告書としてとりまとめる予定としている。当委員会は、同専門部会がこれらの検討を速やかに進めることを期待する。

以上でございます。

（近藤委員長）ご説明ありがとうございました。

それではこの見解案についてご議論いただければと思います。尾本委員、どうぞ。

（尾本委員）この見解文でだめだということを言うわけではないのですが、このワーキング・グループからの報告書は特に私の見るところ、2ページの4つの項目で非常に重要なことを言っていて、それを受けて6ページのところに事業者、規制当局、治安当局が速やかに対応を進めることを期待すると述べています。原子力委員会の見解もそれを全くオウム返しで、事業者、規制当局及び治安当局が速やかに対応することを期待すると言っています。こういう期待に応じて実際何がなされているか、これはセキュリティ上の対策をこういうふうにとりましたというのがどこまで公開できるかという問題はもちろんあるんですけども、重要な問題なのできっちりと対応がされているということを原子力委員会としても確認する必要

があると思います。原子力委員会からセキュリティというのは手が離れていくんですけども、できればその前に確認しておくことがいいのではないかなと思います。

(近藤委員長) 「速やかに対応を進めることを期待する」になっているところについて、これでいいかという問題提起だと思います。確かに、私どもがこれまで原子力安全については真面目にやったださることを期待するとしてきたのに、福島の結果が生じたことについて、今日、いろいろな機会に反省を迫られています。そこで、ここは期待しますと言っぱなしにしないで、適宜に経過を報告いただくことあるべしとしてはどうかということですね。

ご承知のように、セキュリティに関する取組みに関しては年に1回検査の結果を報告いただく仕組みが整備されていますので、1つの考え方は、来年の報告にはこうしたことを申し上げた結果としてこれに対する対応についての所見も含めていただくということもあるのかなと思います。他方、ここに直接適宜に報告されたいと書くのもあるのかなと。どちらがいいですかね。

(大庭委員) どちらにしても IAEA 核セキュリティ・シリーズ勧告文書を踏まえた対応策については来年の年度内に報告ということですよ。その報告書の中で、これはもちろん防護部会の専門の先生方の議論次第だと思いますけれども、核セキュリティについては今年度いっぱい我々の手を離れるわけですが、その前に出すその報告書の中に、チェックアンドレビューのような評価は必要なので、こういう対策をとりました、あるいは核セキュリティ対応についての進ちょく状況を適宜きちんとチェックするような仕組みをもっと今よりも強化すべきであるとか、さらにはそれについてもっと検討すべきとか、またどういうやり方がチェックアンドレビューにふさわしいか、といったことについても、織り込んでいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

(秋庭委員) 報告書の中に。

(大庭委員) ええ、今ここに入れるという手もあるんですが……

(近藤委員長) 次の3月の報告書に。

(大庭委員) はい、そうです。どれぐらい、年度末までに提出する報告書に記載できるか、あるいはいまこの紙にどれぐらい書き込めるのかについて、私には正直なところ相場観がよくわからないので。ただ、チェックアンドレビューであるとか実際に対応策を書いてあって、それが実際それに向けてどのようなことがなされているのかのチェックは絶対必要で、そのことについては今でも若干の制度があるのは認識しているものの、それで十分かということについては検討の余地があるかと思っています。

(近藤委員長) 事務局、考えを述べていただけますか。

(吉野企画官) 速やかにということでございますので、来年3月までの段階の可能な範囲で各担当当局から対応状況をお聞きするという機会を設けるのも1つの案かと思います。内容的にどこまで公開の場でできるかというのはあるかと思います。

それと、今大庭委員からご発言がありましたような形の方角につきまして、部会及びワーキングのほうに問題意識としてお伝えし、事務局として必要な準備をし、ご議論の場を設けるというのももちろんあらうと思います。

(近藤委員長) 大庭委員の2つ目の点は、たしか新規制機関に対する希望というかあの紙に何か書きましたよね。

(大庭委員) 何かありました。ただ、何度書いてもいいと思います。なぜかという、安全もそうですけれども、セキュリティは非常に大事なもので、その程度の割にはどうしてもなかなか重要性が認知されないということもありますので、何度強調しても構わないと私は思います。

(近藤委員長) 鈴木委員。

(鈴木委員長代理) 安全のときの文書の「期待する」と、核セキュリティの場合の「期待する」では、こっちのほうが我々原子力委員会としては重いはずなので、責任があるわけですから。尾本委員のご意見を踏まえると、今回の見解にも対応を進め、「適宜進捗状況を報告すること」というのを入れても私はいいかなと思うんですが。

(尾本委員) 私は必ずしも文章を変えてまでちゃんとはっきりさせるべきということを使ったのではなくて、私の発言の背景は、きょうはこのワーキング・グループ報告のページ1にある、前の専門部会でも申し上げましたけれども、下のほうのパラグラフにある、「なお、本とりまとめはこれらの原子力施設に係る安全対策の検討の対象としていない」というところに非常に、それではどうするのでしょうかというところからきているものです。いずれにしてもそういう検討がちゃんとされて、その結果を、委員長の言葉を借りれば刈り取るといいますか、そういうことはやられるべきということを我々も事務局も念頭に置いておくということが重要だと思っています。

(近藤委員長) つまりは、具体的に進捗状況についてヒアリングをするべきということですね、ですから、この紙にそう書くということでもいいですね。

秋庭委員、どうぞ。

(秋庭委員) 私もこの紙にそのことをきちんと書いたほうがいいと思っています。最後のとこ

ろで、「年度内を目途に報告書を取りまとめる予定としている、速やかに進めることを期待する」とありますが、この部分にきちんとそういうチェックアンドレビューについて取り組まれることを適宜報告し、この速やかに進めるとともにという後に入れてはいかがでしょうか。

(近藤委員長) これはなお書きだからちょっと場所が違うと思いますね。

(秋庭委員) もっと上のほうですか。

(近藤委員長) やはりその上、「内容を尊重して速やかな対応を進めることを期待する」に続けてはどうでしょう。

(大庭委員) 2点あります。今すぐという話と、今後のチェックアンドレビューについて。

(秋庭委員) その上の2行のところですね。

(近藤委員長) 速やかに対応を進め、適宜に進捗状況を原子力委員会に報告することを期待すると書くことにしましょうか。

(鈴木委員長代理) いいんじゃないですか。

(近藤委員長) どうですか。

では、事務局、案を。

(吉野企画官) ではもう一度、この見解の第3段落目でございます。当委員会は、この報告内容を妥当と判断し、事業者、規制当局及び治安当局が、これらの内容を尊重して速やかに対応を進め、適宜進捗状況を原子力委員会に報告することを期待する。という形で見解文をまとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(近藤委員長) いいですか。

それでは、そういたしますか。

それから、尾本委員ご指摘の2ページのところの解釈ですが、これらの施設の安全対策がというところ、セキュリティ対策がすなわち安全対策となっていることがあるところ、それを安全対策ということで排除しているということを意味するとすれば困るということかと思うんですけども、この文章はそのことを排除していないと思います。すなわち、安全対策もセキュリティの観点から必要とあれば対象とすることを求めている文章であると、そう解釈すべき文章と思うのです。ですから、書かずもがなのことを書いているというくらいはちょっとあるとは思いますが。事務局、私の解釈で間違っていますか。

(吉野企画官) いえ、そのような趣旨、全く間違っていないと思います。

(近藤委員長) では、そこはそういうことでよろしいですね。

それでは、本件、これで終わります。

どうもありがとうございました。見解をこのように修正の上、決定することにいたします。

それでは次の議題、その他議題何かありますか。

(中村参事官) 事務局は特段準備してございません。

(近藤委員長) それでは、次回予定を伺って終わります。

(中村参事官) 次回の予定でございます。第44回原子力委員会は臨時会でございます。開催日時、11月10日、木曜日、13時から。場所はいつもの会議室、10階の1015会議室を予定してございます。

以上です。

(近藤委員長) それでは、これで終わります。

ありがとうございました。

—了—